

国立公園で、自然観察会等の解説活動や美化清掃、利用施設の簡単な維持修理などの各種活動について、自発的に協力して頂ける方々をパークボランティアとして登録しています。

今回、白山国立公園と伊勢志摩国立公園のパークボランティアの活動を紹介します。

## 白山国立公園



植物の生態の紹介

白山国立公園パークボランティアは、この3月に7名の新しい仲間が増え、現在13名で富山、石川、福井、岐阜の4県に跨る白山国立公園の全域を活動フィールドにして、主に自然解説や巡視活動を行っています。活動は特に自然解説を中心に、各地の白山国立公園が持つ魅力の紹介に取り組んでいます。

主に、白山国立公園パークボランティアが活動拠点としている場所は石川県白山市にある根倉谷園地です。この場所は、昔から地元の方が稲作やクリの植樹、炭焼きなどの利用してきた場所であり、白山国立公園の中でも人が自然の恵みを生かして生活してきた足跡を感じることができる場所です。その場所で、実際に植物に触れて種子が飛ぶ仕組みを学んだり、炭焼き窯跡を観察したり、クリの木の上にあるクマ棚などの生き物の痕跡などを発見し、五感を使って昔の人の生活の知恵や自然の恵み、野生生物の息吹を感じてもらっています。パークボランティアはそれぞれの持つ個性や得意分野をもとに活動を実施しており、豊かな感性やこれまでの経験に基づいた自然解説は参加者からも好評です。他にも、「白山」ならではの豊富な雪の恵みを生かし、スノーシューを用いて冬芽の観察や雪の深さの調査をする観察会も行っています。



冬芽の観察

今年は、新規メンバーの増加をきっかけにして、新たに登山の利用が集中する夏場に清掃活動を行ったり、巡視活動と合わせて今後の観察会の資源探しを行うなど、活動の範囲を広げていく予定です。

## 伊勢志摩国立公園



自然観察会の様子

伊勢志摩国立公園のパークボランティア活動は、平成11年から始まり今年で12年目に入りました。志摩市にある横山ビジターセンターを拠点として、伊勢志摩国立公園全域をフィールドに様々な活躍いただいています。現在、45名(平成23年6月現在)の登録があり、地元の方が中心ですが、公園の区域外に住む方も多くいらっしゃいます。



横山展望台でのガイドの様子

活動内容には、大きく分けて①利用者への自然解説・案内、②公園の保護管理の2つあります。具体的には、①が自然観察会や横山展望台でのガイドの実施、②が公園内の美化清掃、施設の簡単な補修、野生動植物の保護管理などになります。中でも、①の活動に力を入れており、自然観察会は年間20回以上、横山展望台でのガイド活動は月1回実施しています。定住人口の多い伊勢志摩国立公園では、公園区域外からの利用者へはもちろん、地元住民に対して適切な利用方法や守るべき自然があることを伝えることも重要になってきます。そのためにパークボランティアの存在は欠かせません。

これらの活動は、横山ビジターセンターのHP・館内展示、アクティブレンジャー日記等を通して、公園利用者や地元住民へ情報発信しています。

また、新規登録を希望する声を多くいただいたことから、5月29日に養成研修会を行い、10名の方がパークボランティアに加わりました。新たなメンバーを加え、今後さらに充実した活動を行っていく予定です。